

JAPAN ICOMOS / INFORMATION

INTERNATIONAL COUNCIL ON MONUMENTS AND SITES

JAPANESE NATIONAL COMMITTEE 日本イコモス国内委員会

7期—1号



2007.03.13

CONTENTS♣

はじめに／前野まさる 01

From the President / Masaru MAENO

2006年次第4回拡大理事会報告(12/9)／赤坂 信 02

Reports on the 4th Meeting of the Executive Board, 2006

Makoto AKASAKA

日本イコモス国内委員会 2006年次総会記録(12/9)／赤坂 信 05

General Meeting of Japan ICOMOS, 2006

Makoto AKASAKA

研究会：「日本における文化遺産のバッファゾーン」に関する
報告とディスカッション

報告者：益田兼房 カロリン・フンク 梅津章子 17

Reports and Discussion on the Theme "Buffer zone of
Cultural Heritage in Japan"

Presenter: Kanefusa MASUDA, Carolin Funck, Akiko UMEZU

2007年臨時理事会報告(1/27)／赤坂 信 18

Reports on the extra Meeting of the Executive Board

Makoto AKASAKA

ISCその他国際研究集会報告 その他／伊藤延男 岡田保良 花里利一 20

News and Memorandum of ISC and the other

Nobuo ITO, Yasuyoshi OKADA, Toshikazu HANAZATO

事務局日誌 22

Diary

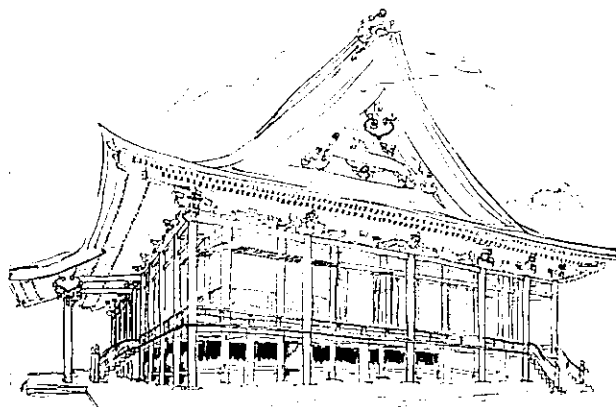
はじめに
前野まさる



去る12月の日本イコモス国内委員会総会で第7期の委員長に推薦されました。第6期の任期後半は、瀬の浦港保存問題、原爆ドームバッファゾーン内の高層建築問題などで皆さんのお力添えを頂き、誠にありがとうございました。現代都市内にある世界遺産とバッファゾーン内の都市開発問題は世界中で起こっており、対策を検討しなければならない問題です。

世界遺産の観光による遺産周辺環境変化、自動車乗り入れによる危機的状況も世界中で起きており、日本も他人ごとではありません。本年も皆様のお力添えを頂かねばなりませんので、よろしくお願いいたします。

日本イコモス国内委員会の会員は昨年末で300人を越え、会員皆様のお力を頂くためにも専門別の協議・研究会の機会を持てるよう企画したいとも考えていますので、よろしくお願いいたします。



イラスト／上野邦一

私は、2007年3月に大学を退職することになります。この退職は、同時に人生の一区切りと考えて、『描いて学ぶ』（連合出版）を発売しました。このことを頭において、昨年10月24日から11月11日の3週間、奈良女子大学記念館で、スケッチの展示会を開催し、この30年間に描いた建物・町・遺跡など約70点と、版画30点ばかりを展示しました。いわば、退職記念展示会です。この展示会にあわせて刊行したのが『描いて学ぶ』です。スケッチ約170点を納めました。170点のうち、前半分は日本の社寺、後半分は、中国・東南アジアの建物・町・遺跡です。最後の15点ほどは、欧米の町です。

スケッチをするということが具体的にどういう効果があるのかと聞かれると、正直言って「分からない。なにか効果があるのか、なにか役に立ったか、自覚はありません」としか答えようがありません。気晴らしと言えば気晴らしでしょう。本にも書いたように、様々な競技をする人が、繰り返し練習するように、多くの職人が腕で体で蓄積していくように、頭や腕に蓄積して行ったのだろう、感性として結実しているのだろう、と思っています。イコモス会員の皆さんにもご覧いただければ幸いです。

2006年次第4回拡大理事会報告

2006年度第4理事会(拡大理事会)が去る2006年12月9日(土)午前11時から13時まで東京テレコムセンタービル東棟20階小会議室(東京都江東区)で開催された。出席者は、委員長:前野まさる、副委員長:杉尾伸太郎、事務局長:矢野和之、理事:赤坂 信、岡田保良(本部執行委員)、小野 昭、杉尾邦江、杉尾伸太郎、西浦忠輝、花里利一、藤井啓介、益田兼房、矢野和之、山田幸正、顧問:伊藤延男の各氏が出席、事務局から秋枝ユミザベル、山内奈美子両氏が陪席した。報告事項、協議事項、審議事項は以下の通りである。

報告事項

「2006年次総会」の資料に基づき、以下の報告事項が確認された。

1. 2006年次 一般報告

(1) 理事会

2006年次の拡大理事会は本会も含めて4回開催されている。なお、内容はJAPAN ICOMOS INFORMATION誌6期から12号に掲載されている。

(2) 担当理事報告

会員担当

2006年12月8日現在で、300名の個人会員、14社の維持会員である。イコモス本部への会費は個人会員276名分とした。学生を対象とする準会員制、国際・国内の維持会員の扱い、海外在住の入会希望者の扱いなど今後の課題が討議された。

(杉尾伸太郎理事)

渉外担当

これまで稲葉理事が海外からの情報を担当していたが、現在は事務局が海外からのメールを受け、会員に転送している。

(事務局)

広報担当

JAPAN ICOMOS INFORMATION誌

過去1年間に第6期第9号(3月17日)、第10号(5月

25日)、第11号(9月15日)、第12号(12月9日)と計4回発行した。誌面の内容は、上述した総会・理事会や小委員会などの諸報告、事務局日誌、各種案内等が大部分である。

国内委員会ホームページ

長年にわたり懸案となっていた日本イコモス国内委員会のホームページの立ち上げについて、ようやく今年度、立ち上げ経費が予算化され、ホームページのデザイン・運営などを業者委託することができた。具体的には事務局を通じて、本会ホームページの構成とデザインおよびメンテナンスについて業務委託することになるが、本格的に稼働されるまでには、いまだ時間を要する見込みである。

(山田幸正理事)

2. 2006年次 会計報告

庶務会計担当

今年は、滞納会費がかなり解消されたことと、経費節減に努力したため、次年度への繰越金が増えた。ただ、2007年度には本部への支払いがドルからユーロに変更(40ドル→40ユーロ)となる。

(矢野事務局長・渡邊理事)



審議事項

1. 入会者、退会者の承認

入会者 個人会員

氏名	所属	専門分野	推薦者
畑中重光 (はたなか しげみつ)	三重大学大学院 工学研究科建築学 専攻教授	建築材料・ 鉄筋コンクリート 構造	西浦忠輝・花里利一
菊池誠一 (きくち せいいち)	昭和女子大学大学院 生活機構研究科 助教授	ベトナム考古学	小野 昭・岸本雅敏
Ehab ELWAGEEH (エハブ・エルワギー)	日本設計 アドバイザー・ アーキテクト	Architect, Ph.D.	岡田保良・田原幸夫
Carolyn FUNCK (カロリン・フンク)	広島大学 大学院 総合科学研究科 助教授	観光地理学・ 博士	前野まさる・矢野和之
Werner STEINHAUS (ヴェルナー・ シュタインハウス)	広島大学 総合科学部 他 非常勤講師、 展覧会プロデューサー	考古学	前野まさる・矢野和之
金攻淑 (キム・ミンスク)	早稲田大学 大学院 理工学研究科院生 (博士後期過程)	工学修士 韓国・日本建築史 文化財保存	中川 武・西本真一
駒田利治 (こまだ としはる)	三重県教育委員会 事務局 生涯学習分野 世界遺産特命官	考古学	矢野和之・友田正彦
森 晃一 (もり こういち)	特定非営利活動法人 ライ建築アーカイブス 代表理事	人間工学・MBA	矢野和之・前野まさる
佐古和枝 (さこかずえ)	関西外国語大学 教授	日本考古学	矢野和之・中田英史
久世啓司 (くぜひろし)	伊文化財保存 計画協会 技術員	建築史 デザイン学修士	前野まさる・矢野和之
岡村 祐 (おかむら ゆう)	東京大学 大学院 工学研究科 博士課程後期	都市計画 工学修士	前野まさる・矢野和之

入会者 維持会員 (国内)

団体名	代表者名	推薦者
善光寺の世界遺産登録を すすめる会	仁科恵敏	鈴木博之・土本俊和

退会者

氏名	専門	事由
西村 康	日本史学	一身上の都合により
川床陸夫	イスラム考古学・文化史	一身上の都合により

2. 次期役員案の確認

2006年11月25日の臨時理事会で協議された次期役員案が確認された。

(1期は3年 0期：新任)

委員長 前野 まさる 2期 東京藝術大学名誉教授

理事 赤坂 信 1期 千葉大学

小野 昭 1期 東京都立大学

河野 俊行 1期 九州大学

黒田 乃生 0期 筑波大学

清水 真一 0期 東京藝術大学

杉尾 邦江 0期 プレック研究所

杉尾伸太郎 2期 プレック研究所

鈴木 博之 0期 東京大学

田中 哲雄 2期 東北芸術工科大学

田辺 征夫 0期 奈良文化財研究所

西浦 忠輝 1期 国士舘大学

西村 幸夫 0期 東京大学

濱崎 一志 1期 滋賀県立大学

益田 兼房 2期 立命館大学

宮城 俊作 0期 奈良女子大学

矢野 和之 2期 文化財保存計画協会

渡邊 保弘 1期 文化財工学研究所

監事 沢田 正昭 1期 国士舘大学

前田 耕作 0期 和光大学名誉教授

3. ISC (国際学術委員会) 委員の通知と承認

門林理恵子氏 (独立行政法人 情報通信研究機構知識創成コミュニケーションセンター主任研究員)がInterpretation and PresentationのISCのSecretariat CoordinatorであるClaudia Liuzza氏から本ISCへ招請、メンバーとして登録されたことが報告された。今後、国内のイコモス会員にならずに、ISCのメンバーに直接なるケースが増えることが予想され、この点について審議された。

協議事項

1. 協力依頼

文化遺産に関わる国際会議「2006国際会議『文化遺産の危機管理Ⅰ』—今、世界の文化遺産は大丈夫か—」開催のため、(財)ユネスコ・アジア文化センター 文化遺産保護協力事務所 (ACCU 奈良) 所長山本忠尚氏より「文化遺産に関わる国際会議等の開催2006 (国際会議) に対する協力依頼について」依頼があり、了承された。

2. 世界遺産のバッファゾーン問題についての検討組織等について

益田理事から以下の報告があった。

(1) 去る11月28日、29日に開催の、イコモス法制行政財政問題ISC (国際学術委員会) の開催に伴って採択された勧告は、世界遺産のバッファゾーンの重要性と、世界遺産広島原爆ドームのバッファゾーンの問題点について、日本イコモスとしても対応を迫られる事態をもたらしている。特に、広島原爆ドームについては、専門的な見地からの検討を日本イコモスとして行なうことが期待されている。

(2) これについては、世界遺産のモニタリングとも関わる重要な事項であるが、モニタリングについて文化庁等の関係機関との協議が必要な部分もあり、当面はイコモス国内委員会の規定に従って、世界遺産緩衝地帯検討小委員会をつくり、当面は広島原爆ドームの緩衝地帯についての検討作業をすることが期待される。なお、世界遺産の小委員会は現在すでに別にあるが、これら世界遺産に関する活動は今後大きく発展することが予想されるので、上記の文化庁等との協議を経てから合体するなどの組織編成をすることが考えられよう。

(3) また、広島での同委員会は、2004年の民家建築国際学術委員会勧告と、2005年イコモス西安総会の勧告に引き続き、広島県福山市鞆の浦の保存について勧告を行なった。この問題については、従来から日本イコモス国内委員会では都市開発問題等検討小委員会が活動しているので、引き続きそこで扱うこととして、この新しい勧告を含めて関係

の行政機関等に専門的な見地からの要望等を検討することとしたい。

これに対して、世界遺産だけの問題ではなく、文化財全体の問題と見るべきで、バッファゾーンだけの問題ではなく、借景や西安で提案されたsettingの問題としても扱うべきではないかという意見が出され、新理事の下で検討されることが合意された。

3. 「美しい日本の歴史的風土100選」への推薦について

古都保存財団 (平山郁夫会長) が主催するもので、誰でも応募できる。イコモスとしてバッファゾーン問題で危機に瀕しているもの、とくに Vista Heritageも含めて考えてみたらどうか。事務局を中心に至急検討してみることが提言された。

4. イコモス理事役割の明確化について

以下の2項目について矢野事務局長から提案があった。

- (1) 理事の役割の明確化
- (2) 理事を補佐するメンバーの創設

日本イコモス国内委員会 2006 年次総会記録



日本イコモス国内委員会 2006 年次総会が、去る 12 月 9 日(金) 午前 13 時 40 分から 16 時 30 分まで東京テレコムセンタービル東棟 20 階小会議室(東京都江東区)で開催された。出席者は 22 名、委任状は 161 通で、過半数に達しているため、総会は成立した。議事は報告事項と審議事項、さらに協議事項に分けて進められた。

報告事項

1. 2006 年次 一般報告

(1) イコモス本部報告

2006 年は、1 月はパリ本部事務局で第 1 回、第 2 回は諮問委員会と合同で 9 月にエディンバラで開催された。1 月の委員会は 13 日にアジェンダの採択、14、15 両日に「世界遺産パネル」を開いて今年度ユネスコの申請されている世界遺産候補の審査、16、17 両日はパネルのあり方、次回総会、3 年計画などについて審議した。第 2 回は 9 月 8 日から 13 日までの間に、遺産の危機に関するミニシンポジウム、諮問委員会、Scientific Council、エクスカージョンとともに執行委員会が組み込まれ、諮問委員会での議論や提案を受けるかたちで開かれた。Scientific Council では、来年から執行委員会に加わる 3 名の推薦委員が選出されている。以上の他、三役と 5 名の副委員長からなるビューロー会議が 6 月にイクロムを会場開かれている。(岡田執行委員)

(2) 理事会

2006 年次の拡大理事会は 4 回開催されている。なお、内容は JAPAN ICOMOS INFORMATION 誌 6 期から 12 号に掲載されている。

(3) 担当理事報告

会員担当(杉尾伸太郎理事)

① 会員の動向

	個人会員	団体会員	維持会員		名誉会員 (顧問含)
			国際	国内	
2005 年度 12 月末	274	0	0	13	4
2006 年度 11 月 30 日現在	291(+17)	0	0	13	4
	入会 11			入会 1	
12 月 9 日予定	退会 2				
	300(+26)	0	0	14	4

② イコモス本部への会費の送金について

個人会員 276 名(2006 年 5 月 12 日現在) 3 年間の滞納者を除いた数を根拠として 10,660 US ドルを支払った。一人当たり送金手数料込みで約 4,560 円にあたる。

③ 今後の課題

以下の検討事項が示された。

1. 学生(学部学生に限るかどうか)のための準会員
2. 海外在住の入会希望者(過去台湾からの希望 1 名有り)のための海外会員
3. イコモスサポーターへ安い会費で特定の情報のみを提供する会友
4. 国内維持会員は規定外の措置として設定されたが投票権がないなどの問題があるので、今後国際維持会員あるいは団体会員に移行するか、もしくは規約を現状に添って改定する必要がある。
5. ICOMOS 本部で選任される名誉会員のみが名誉会員であるのか、会費の納入を免除される顧問は日本イコモス国内委員会名誉会員とする制度を創設するのか
6. 各対応によっては事務局に負担が増加することについて
渉外担当(稲葉理事、事務局)

現在は事務局が海外からのメールを受けて、各会員に転送している。

広報担当(山田理事、赤坂理事)

① 広報

本年もまた、広報活動においては、これまでと同様、国内委員会事務局とともに、JAPAN ICOMOS INFORMATION 誌の定期的な発行を通じて、会員全員に対して、理事会や

事務局の活動状況などをできるだけ速やかにお伝えすることに努めました。本誌において、年度末の総会報告、各回の理事会や研究会の報告、イコモス本部執行委員会などの報告、国際専門委員会や小委員会の活動報告、日常の会務を記録した事務局日誌、各種の情報などを掲載しました。

② JAPAN ICOMOS INFORMATION 誌

過去1年間に第6期第9号(3月17日)、第10号(5月25日)、第11号(9月15日)、第12号(12月9日)と計4回発行し、全会員に郵送しました。誌面の内容は、上述した総会・理事会や小委員会などの諸報告、事務局日誌、各種案内等でしたが、第9号では、国内委員会総会記録に続き、第15回ICOMOS中国西安大会に参加された4人の講演記録、岩崎好規氏「遺産建築構造の解析保存部会ISCARSAH 2006の報告」、第10号では前野まさる氏「世界遺産『広島平和記念公園(原爆ドーム)』の景観問題について」、杉江邦江氏「世界遺産登録にかかるセッティングの重要性について」、第11号では前野まさる氏「アジア太平洋地域会議Cultural Tourismに関するワークショップの報告」、赤坂信氏「座談会『文化的景観から見た熊野古道』に参加して」、第12号は西村幸夫氏「『西安宣言』一周年記念の国際シンポジウムに参加して」、文化的景観・考古遺産管理・木・歴史的建造物の構造補強と解析の各ISC(国際学術委員会)の報告、益田兼房氏「文化遺産と都市開発の課題検討小委員会報告」など、ISCおよび関連の国際会議など国内外における文化遺産やその保存などをめぐる多彩な活動や話題を掲載しました。

③ 国内委員会ホームページ

長年にわたり懸案となっていた日本イコモス国内委員会のホームページの立ち上げについて、ようやく今年度、立ち上げ経費が予算化され、ホームページのデザイン・運営などを業者委託することができました。具体的には事務局を通じて、本会ホームページの構成とデザインおよびメンテナンスについてアイエムピー imp corporation(尾谷氏)に業務委託するとともに、ソネット So-net においてドメイン名(www.japan-icomos.org)を取得しました。本総会までに、暫定的なものでもアップするよう、鋭意作業を進めています。またこの件ではそれぞれの国際専門委員会や小委員会などにもご協力をいただきました。ただ、本格的に稼働されるまでには、いまだ

時間を要する見込みであり、各位のご理解とご協力を引き続きお願いいたします。(山田)

④ 2007年次活動方針 広報担当

2006年次の活動報告の通り、JAPAN ICOMOS INFORMATION誌は本年1年間で計4回発行されました。理事会の議事内容を報告することを第一義に、毎回、理事会開催前の発行をめざしてきましたが、本年度はいずれもなんとかその期日に間に合うことができました。これはひとえにお忙しいなか、原稿を期日までにお寄せいただいた方々によるところが大きいと痛感しております。この場を借りて深く御礼申し上げます。来年度においても、これまで通り、JAPAN ICOMOS INFORMATION誌を年4回程度、定期的に発行し、総会・理事会の報告、国内委員会が主催・後援する研究会、講演会、シンポジウムなどを中心に、その告知や報告、さらには事務局の会務記録などを、会員の皆さんにお伝えしていきたいと考えております。

また、本会ホームページについても、来年度は現状のものをもとに、さらなるバージョンアップをはかりたいと考えております。検討すべき事項はまだたくさん残されておりますが、とくに英語版の作成、日常的なメンテナンス、一般への対応などが最も大事なことでと考えております。また、掲載する内容の一層の充実をはかるためには、それぞれの国際専門委員会や小委員会などの積極的なご協力をいただかなくてはならないと考えておりますが、一方で、各国際専門委員会は国内委員会とは別組織であり、それぞれ独自の広報活動があるべきで、国内委員会のホームページで取り扱うべき範囲・領域などについて議論・検討すべきだとの指摘もなされております。今後、理事会・事務局において精力的にご検討いただきながら、さらなる情報公開へ向けて努力していきたいと思っております。(山田)

2. 2006年次 会計報告

庶務会計担当(矢野事務局長・渡邊理事)

今年は、滞納会費がかなり解消されたことと、経費節減に努力したため、次年度への繰越金が増えました。2007年次にホームページ作成(現在鋭意作成中)の委託料が発生しますが、当面の活動に問題はないようです。ただ、2007年には本部への支払いがドルからユーロに変更(40ドル→



40ユーロ)となり、実質1,500円弱のアップとなりますので、会費の値上げをしないで凌ぐ方策を考えていかなければならないと思われま

また、もっと活動を強化するためには、収入源を新たに見つけることも必要で、2007年次で真剣に議論する必要があります。

日本イコモス国内委員会 2006 年次 会計監査報告

日本イコモス国内委員会 2006 年次会計報告 (2005/12/22~2006/11/30)

1. 前年度より繰越		1,198,495 円
2. 収 入		
会費		3,320,000 円
会員会費	1994年~2005年分	620,000 円
	2006年分	2,670,000 円
	2007年分	30,000 円
維持会員会費		650,000 円
国際会議助成金 (ACCU)		4,457,700 円
雑収入		130,000 円
寄付金		306,860 円
普通預金利息		169 円
定期預金利息		3,013 円
合 計		8,867,742 円
3. 支 出		
ICOMOS 本部年会費 (40ドル×276人)		1,257,902 円
会議費 (総会・理事会・他)		334,646 円
国際会議費		4,457,700 円
INFORMATION 誌 編集・印刷費 (4回)		760,254 円
通 信 費		303,401 円
事務用品費		51,820 円
事務局人件費		644,153 円
慶 弔 費		23,460 円
合 計		7,833,336 円
4. 収支 (収入-支出)		+1,034,406 円
5. 次年度へ繰越		2,232,901 円
6. 銀行預金残高		
定期預金 (イコモス研究振興基金)		12,550,000 円
普通預金		2,232,901 円
計		14,782,901 円

以上の通り報告します。2006年11月30日

会計担当理事

矢野利

渡邊保

会計監査欄

2006年12月6日

監事

澤田正昭

会計報告の通り、間違いのないことを確認いたしました。(沢田監事)

3. ICOMOS 国際会議 2006 年次報告

2006年度に行なわれた日本イコモス会員が関与した主な国際会議は次の通りである。

ISCARSAH: International Scientific Committee for Analysis and Restoration of Structure of Architectural Heritage

< ISC > キプロス会議 2006年2月22～25日

於：首都レフコシア

報告者 岩崎好規

日本イコモスからの参加者 花里利一・岩崎好規

Historic Garden and Cultural Landscape < ISC >

ポルトガル コインブラ 委員会および公開シンポジウム

2006年4月29～5月2日

日本イコモスからの参加者 杉尾伸太郎

石見銀山遺跡 現地視察と国際シンポジウム < 国内 >

於：日本 島根県大田市

2006年5月27日

日本イコモスからの参加者 多数

(報告：赤坂信 INFORMATION誌6-11参照)

アジア太平洋地域会議とカルチュラルツーリズムワークショップ

< 国際 >

於：韓国 ソウル

2006年6月10～13日

日本イコモスからの参加者 前野まさる

歴史都市集落委員会 < ISC >

於：ポーランド ウーチ

2006年6月28～7月1日

日本イコモスからの参加者 福川裕一

イコモス諮問委員会 < 国際 >

於：イギリス エディンバラ

2006年9月8日～11日

日本イコモスからの参加者 前野まさる

執行委員会報告 < 国際 >

於：イギリス エディンバラ

2006年9月12日～13日

日本イコモスからの参加者 岡田保良

第15回 国際木の委員会報告 < ISC >

於：トルコ イスタンブール

2006年9月18～23日

日本イコモスからの参加者 伊藤延男、土本俊和、
本田智子

文化的景観 イコモス・イフラ < ISC >

於：イタリア ベルバニア

2006年10月5～7日

日本イコモスからの参加者 杉尾伸太郎

文化遺産防災国際フォーラム・アジアの世界遺産を災害から
どう守るか < 国際・国内 >

於：京都 キャンパスプラザ

2006年11月3日

日本イコモスからの参加者 前野まさる、益田兼房、
大窪健之、李明善、秋枝ユミイザベル

CIIC < ISC >

於：スペイン

2006年11月14～17日

日本イコモスからの参加者 杉尾邦江

CIAV 年次委員会 < ISC >

於：メキシコ パツクワエロ

2006年11月6日～10日

日本イコモスからの参加者 前野まさる

世界遺産条約とパツファゾーンに関する国際会議 < 国際・
国内 >

於：広島 ホテルグランヴィア広島

2006年11月27日～29日

日本イコモスからの参加者 河野俊行、梅津章子、
宇高雄志、前野まさる 他多数

「西安宣言」一周年記念の国際シンポジウム < 国際 >

《INFORMATION誌6-12参照》

昨年10月、中国西安で開催されたイコモスの第15回総会の最終日に採択された「西安宣言」の一周年を記念する国際シンポジウムが総会の開催地、西安において西安宣言が採択された10月21日をはさんで開かれた。参加者はミハエル・パツェット会長、ディヌ・ブンバル事務局長など海外からの参加者約30人を含む約300人であった。中国国内の関係者の力の入れ方が目立った。日本からは国際イコモスの執行委員である岡田保良氏と西村とが参加し、それぞれ、イランの文化遺産の保護と国際協力、および日本の木造建造物のオーセンティシティと技術の伝承についての論文



発表を行なった。日本からのこの2つの発表のほか、14の論文発表と3つの基調講演があった。(西村)

4. 各ISC(国際学術委員会)および小委員会報告

ICOMOS ISC (国際学術委員会) 2006年1月～12月において以下の会議が開催された。

*Archaeological Heritage Management (ICAHM考古遺産管理運営委員会：小野 昭、岸本雅敏)

《INFORMATION誌6-12参照》

*Analysis and Restoration of Structures of Architectural Heritage (ISCARSAH 建築遺産構造解析：花里利一、坂本 功、西澤英和)

《INFORMATION誌6-12参照》

* Cultural Routes (CIIC 文化の道：杉尾邦江)

2006年度国際学術委員会CIIC (Cultural Routes 文化の道委員会) の会議、シンポジウムは2006年11月13日から17日までスペインの鉱山都市アルマデンとマドリッドで行なわれました。日本から杉尾邦江が出席しました。会議、シンポジウムについて下記の通り報告いたします。

シンポジウム

テーマ

- (1) Mining and Industrial Heritage: Impact on Cultural Routes
- (2) The mine of Almaden and other mining sites linked to the Intercontinental Spanish Royal Road through the Mercury Route
- (3) Mining and Industrial Heritage: Impact and Importance for Cultural Routes of Universal Value

テーマ(1)と(2)はアルマデンで、(3)はマドリッドで開催された。イコモス本部からは会長のミハエル・ベツェット氏の参加があった。会長初め6人から世界遺産条約とイコモスの役割、CIICに於けるカルチュラルルートの役割等基調講演の他各地の「鉱山および鉱山都市の歴史」、「アルマデンの世界遺産へのノミネート」「鉱山の保全と活用」「世界の

鉱山の比較評価」「水銀、銀の移送ルート」、「鉱山の歴史、文化的価値」、など33におよぶ報告があった。その他アルマデン鉱山の坑内見学、各鉱山博物館、ビジターセンター等の見学があった。スペインはこのアルマデン鉱山の世界遺産登録に向けて、キャンペーンを非常に熱心に行なっていると共に保全と活用にも諸施設の整備を積極的に行なっていたのが印象深い。

CIIC 会議およびシンポジウム

CIICのシンポジウム、および会議は11月17日スペインのマドリッド工科大学鉱山学部講堂で行なわれた。シンポジウムのテーマはMining and Industrial Heritage: Impact and Importance for Cultural Routes of Universal Value。基調講演としてCIIC会長 Maria Roza Suarez-Inclanによる「CIICによりなされた成果および今後実施すべき目標およびCultural Routes 憲章研究の最近の動向について」の報告およびGustavo Araozによる「国際学術委員会の役割、普遍的評価とイコモスの研究体制の現状について」があり、最近のイコモスISC (国際学術委員会) の現状かつCIICの活動について報告があった。

次に上記テーマで18の報告があった。報告はアルゼンチン、パレスチナ、インド、イタリア、イスラエル、日本、ルーマニア、ギリシャ、スペイン、キューバ、メキシコ、USA、コスタリカ、コロンビア、カナダ、スリランカの16カ国からの報告があった。杉尾からは「佐渡金銀山金鉱山と金ルートおよび金鉱山町」について報告した。特に今大会の主要テーマがスペインアルマデン水銀鉱山であったが、アルマデン産出の水銀ルートがスペインからアメリカ大陸、メキシコまでのルートが研究されていたが、今回杉尾によってアルマデンの水銀はさらに佐渡金山にもたらされていた事が報告された事により、水銀ルートが日本にまでおよぶ事が知られるところとなり、反響を呼んだ。

CIIC 会議では下記について決議決定された。

ギリシャより提案のあった「アレキサンダー大王の遠征ルート」はギリシャとCIICと共同研究とするCultural Routes 憲章については、もう少し手を入れるべく少人数の体制で検討を続ける。

その他シンポジウムや研究報告に多くの時間が取られ、そのために他の審議は時間切れとなった。次回の会議日程は

未定。なお今回の参加者は研究報告者のみに限定された。

*** Cultural Tourism (文化的観光：宗田好史)**

特に動きがありません。

***Earthen Architectural Heritage (土の建築：岡田保良)**

2005年の西安総会の際に再発足し、20名余の暫定委員を正式と認めた(Board member)。英文名称も少し変わって I. S. C. of Earthen Architectural Heritage (略称 ISCEAH イスケア) となった。当面の組織固めとして、新しいエゲル西安プリンシプルにしたがってネット上で公式選挙を行ない、委員長 J. ハード氏ら三役を選出した。このときの投票管理は、法規に関する ISC 委員長の J. リープ氏に協力を仰いだもので、他の委員会でも参考になると思われる。2006年の委員会は専らネット上で行なわれ、新規約の制定、5項目の活動テーマについて成案を得た。さらに、第10回となる「土の建築国際会議」の開催をGetty保存研究所(GCI)と協同で調整していたが、2008年2月にマリ共和国で行なうことになった。日程詳細は公表されしだい周知を図る予定だが、本委員会のウェブ・サイトは目下準備中のため、情報は当面 GCI のサイトを参照していただきたい。ほかに、イコモスの活動ではないが、ユネスコ信託基金事業の一環で、イランのチョガ・ザンビール遺跡を素材兼会場とし、12月2日から3週間の日程で、「土の遺産に関する保護と管理」の研修事業が行なわれている。約70名のイラン人若手専門家を対象とし、埼玉大の渡辺教授と岡田が参加している。

*** Cultural Landscapes ICOMOS-IFLA (文化的景観国際委員会イコモスイフラ：杉尾伸太郎)**

〈INFORMATION誌6-12参照〉

*** Historic Towns and Villages (CIVVIH 歴史的町並み集落：福川裕一、上野邦一)**

CIVVIH 関連で今年行なった会議は次の通りです。

会議名：PRO-REVITA LODZ 2006

場所：ポーランドのウーチ

期日：2006年6月29日～7月1日

テーマ：Revitalization as a Vehicle of Identity and Develop-

ment of Metropolitan Areas

発表した論文：Reflections upon Recent Urban Developments in Tokyo from the Viewpoint of Historic and Community Conservation: Taking Some Cases

説明：本来はフィンランドで開催予定であったが、フィンランド ICOMOS のアンさんが急逝したため中止。急逝、ポーランドで開催される上記会議の一部を借りて CIVVIH の発表会を行なうこととなった。CIVVIH のポーランドメンバー Pawlowski 氏が、本会議の実質的なボスであった。また、この会議の主催者に INTERNATIONAL SOCIETY OF CITY AND REGIONAL PLANNERS (IsoCaRP) が名を連ねているが、このメンバーは CIVVIH の会合にも参加している。なお、CIVVIH メンバーの参加は7～8名であまり多くなかった。なお、LODZ は巨大な紡績・織物会社があった都市でこれまた巨大な煉瓦づくりの工場(横浜の比ではない)や労働者の住宅街がよく遺っている都市。一つの工場はショッピンセンターになっているが、ここで CIVVIH 一部メンバーが「この保存は何だ！建物の心が殺されている」と騒ぎだした。いずれにせよ、産業遺産の保存が本会議の一番のテーマであった。それにしてもなぜわが国には産業遺産が乏しいのだろうか。(福川裕一)

*** Legal, Administrative and Financial Issues (ICLAFI 法律・行政・財政問題：河野俊行)**

この委員会の最近の会議は、中国の西安における2005年10月の総会の期間中の会議・2005年11月のブリュッセル(ベルギー)で開催された「考古学的遺産の保護」に関するシンポジウム・2006年11月の広島(日本)における「世界遺産と緩衝地帯」に関するシンポジウムである〈本日の研究会で報告〉。

中国西安での総会では、James Reap 委員長は総会に対し、選挙問題についての法的な勧告を行なった。また Gideon Koren 事務総長は、決議を確実に法的形式に整えるために、決議起草委員会のメンバーとして働いていた。同時に、Christopher Young と James Reap の両委員は、科学的シンポジウムのための論文を選別するにあたり、当委員会のメンバーとして働いていた。

ICLAFI は法に関する二つの小委員会を立ち上げた：そ



のうち一つは、ICOMOS国内委員会の新しい規約や改正された規約を検討するための小委員会であり、もう一つは、各ISCの規約や改正された規約を検討するための小委員会である。どちらの小委員会も各国国内委員会及び各ISCの規約の改善のための指針づくりに取り組んでいる。ICLAFIのメンバーは、ブルーシールド国際委員会の会議や、他の協議・国際会議において、ICOMOSを代表してきた。ICLAFIはICOMOS憲章をアラビア語に翻訳し刊行するために努力している。

*** Heritage Documentation (CIPA 写真測量文献：高瀬 裕、山田 修)**

10月30日から11月4日にかけてキプロスのニコシアで開催された第37回CIPA国際ワークショップにキヤドセンター高瀬 裕氏が参加。期間中に開かれたCIPA Executive Committeeミーティングにおいて、2009年のCIPA総会を京都で開催することが正式に決定した。

日本写真測量学会(JSPRS)の協力、支援も承認をいただいており、2009年の秋季学会を同時開催する予定。

(山田 修)

*** Rock Art (CAR岩面画：小川 勝・五十嵐ジャンヌ)**

岩面画委員会 Rock Art Committee/Comité d' Art Rupestre (CAR - ICOMOS) 国内の活動については以下の通りである。

・今年2月、山口県下関市にて彦島杉田遺跡岩面画の調査(参加者11名)。

・11月、北海道にて岩面画研究会発足。フゴッペ洞窟(余市町)、手宮洞窟(小樽市)、札幌市開拓記念館にて岩面画資料の調査(参加者11名)。

国際的活動については以下の通りである。

・今年6月、イコモス岩面画国際委員会によるテーマ研究報告書『Rock Art of Latin America & Caribbean』作成。(ホームページ www.icomos.org よりダウンロード可)

・9月、ポルトガルのリスボンにて、IFRAO*1との共催で、UISPP*2による"Art rupestre - Etat de l'art global"会議を開催。

*1) IFRAOとはInternational of Rock Art Organizationsの略

称。

*2) UISPPとはUnion Internationale des Sciences Préhistoriques - Protohistoriquesの略称。UNESCOの財政支援を得、CAR - ICOMOSと協力関係にある。

(五十嵐ジャンヌ)

*** Risk Preparedness (ICORP 防災：益田兼房)**

日本イコモス国内委員会の共催事業の報告

2005年1月の国連防災世界会議の「ユネスコ・イクロム・文化庁—文化遺産危機管理」分科会勧告を受けて、立命館大学歴史都市防災研究センターは、10月24日から11月3日までの約2週間、ユネスコチェア・プログラムとして「文化遺産危機管理国際研修」を行なった。日本イコモス国内委員会はこの研修の一部である11月3日午後の一般公開プログラム「文化遺産防災国際フォーラム・アジアの世界遺産を災害からどう守るか」の共催者となり、前野委員長が開会の挨拶をされた。近年アジア等で続く世界遺産の災害に対応して、世界遺産委員会でも防災は大きな課題となっている。ユネスコ・イコモスの後援を受けたこの研修では、アジアからインド・パキスタン・インドネシア・韓国の4カ国から、各国政府等の文化遺産と防災の専門家の双方を招聘し、講義と現地見学等を行ない、最終的に自国の世界遺産の防災計画を作成する演習を行なった。国際フォーラムでは、ユネスコ世界遺産センターのアジア地域担当主任ボッカルディ氏の講演等があり、各国参加者から計画案の発表等があった。この研修は今後5年間程度継続して行なわれ、イコモスからは日本国内委員会及び国際学術委員会の防災委員会(ICORP)の協力を得て行なわれる予定である。

*** Stone (ISCS 石質遺産：西浦忠輝、石崎武志)**

2006年は9月にパリでミーティングが開かれ、最終的にホームページが承認された。ホームページは現在、英語、仏語でつくられているが、順次、他の言語に広げていく方針である。ただしこの場合は当該国の多大の協力が必要とされる。次回ミーティングはエディンバラ(スコットランド)で開催の予定であるが、まだ流動的である。近年アジアからのメンバーが増えつつあることは喜ばしいことである。

(西浦忠輝)

* Training (CIF 保存修復研修：稲葉信子)

本委員会では、2007年2月14～16日、イタリア・ピサ市で「craft and craftsmanship」に関するワークショップが計画されている。日本は伝統的な技術の保護の歴史は長いので貢献が期待されている。

* Underwater Cultural Heritage (ICUCH 水中文化遺産：荒木伸介)

水中文化遺産会議 (ICUCH) の例会は、一昨年はスリランカのゴール、昨年は南アフリカのケープタウン、そして今年にはクロアチアのドブロブニクで開催された。残念ながら、私は経済的理由、健康的理由から、何れにも出席できず、メンバーとしての役割を果たしていないことを深くお詫びしなければならない。しかし、情報の伝達、交換は、もっぱらEメールで行なわれ、メンバーリスト、情報網の構築も進められている。

最重要課題は、UNESCOによる「水中文化遺産保護に関わる条約」批准推進である。本年11月現在、ようやく10カ国が批准しているに過ぎない。この問題に関し、2003年11月にUNESCO主催のアジア太平洋地域のワークショップが香港で開催された。この会議は私がICUCHメンバーとして参加した最後の国際会議である。コーディネーターのプロト女史の求めに応じ日本の状況などを発表し、日本がいかに海そして海の文化財に関心がないかを述べたが、不思議がられるばかりであった。幸い、プロト女史が日本の外務省などとの協議の経験などから、私の意見をフォローしてくださったことに感謝している。

欧米は勿論のこと、隣国の韓国、中国さらにはインド、インドネシアなどと比べても、わが国の水中文化遺産に対する関心、対応のあり方などはるかに遅れていることは否めない。水中考古学に関する講座を置く大学もなければ、公的研究機関も存在しない。まったくの後進国であり、このこともあって国際会議への出席も意欲が鈍ってしまっている。

* Vernacular Architecture (CIAV 民家：前野まさる、大野 敏)

2006年次のCIAVの年次会議は11月7日～10日の4日間で、メキシコの歴史的都市 Patzcuaro において “Pride

of Place” をテーマとして開催された。会議はAncient Jesuit Collegeを会場に、メキシコ陸軍鼓笛隊のマーチとメキシコ国歌の吹奏で始まった。初日7日はMichoacan県知事夫人の挨拶とMachat前CIAV委員長の基調講演で始まった。

CIAV委員の講演内容は1) 民家建築の文化的認識、2) 民家建築の保存、3) 民家建築の素材、4) 民家建築の保存技術と教育、5) 民家建築と住民の誇り、協力、観光、の5項目に分類できる。多くは物に関するもので、民家建築の保存と住民に関するものは皆無だった。“Pride of Place”のテーマは2005年の西安のCIAV会議の時「民家建築の保存が難しいのは、住民が地域の民家に誇りを持っていないからだ」との発言があり、私が「そんなことはない。民家調査の姿勢が問題だ。住民に教わる姿勢で民家調査をすると、住民は先に立って案内し、誇りを誘発する」と発言したことで“Pride of Place”のテーマが決まった経緯がある。8日の民家視察はSan Antonio保存事業の成果を住民の案内で見るといった。San Antonioの民家は、4～5m角の校倉造り柿葺きの一室住居が、板塀に囲まれた敷地の4隅に建つもので、他のメキシコ住宅とは異なるSan Antonio原住民の創出した独特な民家建築だろう。住民もこのことを誇りにしている感じが感じられた。9日午前中に、歴史的都市Patzcuaroの歴史的建築を視察し、午後から研究発表を行なった。私は最終報告者で、“Pride of Place”をテーマとして、地域住民から地域の誇りを湧き出させる方法について経験を通じ述べた。また、その誇りを基に歴史的遺産の保存と活用の運動をしている日本の住民活動を紹介した。民家建築の問題を報告した委員には会場から質問が出ていたが、私にはなく、しかし、終わってから貴方の話を授業に使用したいとの申し出を数人から受けた。10日はCIAVの会議で、2005～2006年の活動報告があった。

CIAVの委員数62名、43カ国加入。5ヶ国から6人の名誉会員を出していることが報告された。一方、CIAVのスコパキア出身の副委員長Milos Dudas委員の活動が思わしくないとのことで、クレームがつき、改選の結果スウェーデンのLena Palmqvistが選出された。

CIAV活動計画について：

- 1) 本年のメキシコCIAV会議計画、2) Vernacular Architectureの挿絵入り版の憲章本の発行計画、3) 伝統的建築



保存の歴史出版、4) Vernacular Architecture 保存運動の関連組織との連携、5) Eger 西安 Principles に沿って各委員会の見直し、6) 民家建築荒廃地域の再生の国際的連携、7) CIAV の機関紙発行について、8) 会員の受賞計画を進める。以上 8 項目について継続推進すること。

西安の ICOMOS 全体決議で CIAV から提案された 2 件：

1) 被害地域の伝統的民家建築の安全対策、2) 軒の浦の歴史的遺産を破壊する埋め立て架橋の計画の廃止。以上 2 件の継続要請。

Doctrine に関し、1999 年の ICOMOS 総会で採択された無形文化遺産保存憲章を 5カ国語に訳し、委員会 Web Site を通じ文化遺産保存関連機関に配信する。以上が採択された。

2007 年の CIAV はフィリピンで 10 月～11 月の間で開催する。フィリピンには文化的自然景観として世界遺産に指定された Cordilleras の棚田がある。この棚田は 1000 年ほど前から米作を続けてきて、現在も米作を続けている。棚田の風景と谷あいの茅葺民家集落の創り出す景観は、文化的自然景観として見事なものである。しかし残念ながら、この棚田は近年の周辺環境の変化から危機遺産として登録されてしまった。2007 年の CIAV 会議でこの現状を視察し、参加諸氏の危機遺産解除へのお考えを承れたら幸いである。

(前野まさる)

***Wood (IIBC 木の委員会：伊藤延男、本田智子、渡邊保弘)**

第 15 回国際木の委員会報告

〈INFORMATION 誌 6-12 参照〉

小委員会

***憲章小委員会：第 1 小委員会（藤井主査）**

憲章委員会では、あるべき日本の建築憲章に関して検討を行なっている。西欧諸国で作成されている憲章に対し、木造建築を主とする日本の建築文化全体を包括的に捉えること、日本での保存活動の原理を抽出することが基礎作業であって、現在その検討を実施している。具体的には、稲垣榮三氏がかつて提案した予備的な考察（ドキュメント）に対

する再検討を進めている。さらに、戦後の保存活動に長く関わってこられた先達たちへのインタビューを企画している。ニューズレターの紙面をお借りして公表することを希望している。2007 年度も継続する予定である。（藤井恵介）

***世界遺産小委員会：第 4 小委員会（稲葉主査）**

本小委員会の 2007 年度の活動方針については、9 月開催の理事会で話し合った結果、無形遺産条約が発効したこともあり、当該条約中の文化空間と世界遺産条約の文化的景観などの関係が今後、重要な課題になっていくことが想定されることから、世界遺産条約における無形の価値の問題について考えていくこととなった。（稲葉信子）

***プロヴディフ旧市街保存事業協力班：第 5 小委員会（石井主査）**

2007 年次活動方針：

日本ブルガリア両国イコモス国内委員会の共同企画に基づく「プロヴディフ旧市街保存地区内建造物修復事業」（略称：Ancient Plovdiv Conservation Project）は、「ユネスコ文化遺産保存日本信託基金」（UNESCO/Japan Trust Fund）から総額 999,738 米ドルの供与を保証され、2003 年 10 月以降、実施段階に入った。事業期間は当初、3 年間の予定であったが、開始直後にユネスコの機構改革が災いして予想外の大幅遅延が生じたため、過日、ユネスコ（ヴェニス支所）と日本政府（外務省）の協議により相応の期間延長が了承された。順調に進めば、2007 年 12 月末までに現場作業を終え、08 年 3 月末までに最終報告書を刊行することになろう。第 5 小委員会（設置：2001 年 9 月、委員：石井 昭・金原保夫・麓 和善・前野まさる・矢野和之）は理事会との緊密な連携を保ちつつ、最終報告書の完成まで引き続き当事業に関わる諸般の実務を担当する。

2007 年次の主なスケジュールは次の通り。

(1) ICOMOS Joint Working Group とプロヴディフ市との合同現地会議を、3 月下旬ないし 4 月上旬の約 1 週間にわたって開催する。重要課題の第 1 は、老朽化が予想以上に甚だしいため修復工事が難渋している 2 件（計 3 棟）の家屋、Bayatova-Bakalova Ensemble と Klianly House について、設計監理者および施工業者を交えて実情を再点検すると共に

修復方針を確定し、追加工事に対して適切な予算を配分することである。2005年中に実施した10種類の競争入札から生じた余剰金を支出するが、おそらく市当局にも追加支出を求める必要がある。第2の重要課題は、最終報告書（正本：英語版）の編集方針・執筆分担などについて詳しく審議し合意事項を文書化することである。すでに原稿（図面・写真等を含む）の準備が部分的に進んでいるが、未解決の問題が極めて多い。今のところ、この現地会議には第5小委から麓・石井の両名が出席する予定である。

(2) 当事業の一環として決定されている外国人専門家招聘プログラム（Foreign Expert Invitation Program）を、上記現地会議の直後に1週間程度の日程で実施する。ICOMOS Joint WGやプロヴディフ市関係者の間には、前回（06年6月）の経験から見て、準備に費やす労力・時間・予算が無駄である、成果は乏しい、との否定的意見が強い。しかしユネスコ文書に明記されたプログラム（主な目的は査察と助言）を一方向的に中止するのは適当でないので、ICOMOS Joint WGの共同議長（Staneva、石井の両名）が人選を含めて効果的な対案を鋭意検討中である。

(3) 7月初頭から8月末までの9週間にわたり、3週間をもって1タームとする実務研修コース（Professional Training Course）を計3回、旧市街保存地区内で開く。対象は建築系・美術系の学生および若手専門家。指導に当たるのは主として設計監理チームと施工業者。主催者はプロヴディフ旧市街管理事務所、Joint WGが運営の全般に協力する。前回の実務研修コース（06年の夏）は大成功であったと関係者全員が評価しているため、参加者の募集・選考・処遇方法・等を含め、なるべく前例を尊重する。第5小委からは適任者1名が講師として、前回同様、1週間ほど参加するよう期待されている。

(4) 10月中旬ないし11月中旬ごろに、ICOMOS Joint WGとプロヴディフ市との第2回合同現地会議を開催する。重要課題の筆頭はもちろん最終報告書の作成である。当事業の終了を目前に控えて、処理すべき他の重要課題もさぞ多いに相違ない。会期は1週間では不足で2週間を要するよう思われる。UNESCO/Japan Trust Fundから供与される資金のうち、第5小委メンバーが日本・ブルガリア間の格安航空券を買う予算は延べ15往復分であった。この会議に2名が

参加すると予算は底をつく。我々は過去数年間、膨大なメールや添付ファイルを取り交わすことによって通信会議を経験してきたので、そのことを敢えて怖れない。最終報告書もメールで編むことになるであろう。（石井 昭）

*文化遺産と都市開発の課題検討小委員会：第6小委員会（益田主査）

今年度は、昨年度以来継続案件である、広島県福山市の港湾埋立架橋問題と、世界遺産白川村荻町集落の交通問題について取り組みました。鞆の浦では今春、地元の保存活動市民団体8団体が広島県知事・福山市長へ署名と共に客観的な検討の場の設置の要望書を提出しました。しかし県・市とも方針に変更無く、来年度の埋立申請に向けて準備事業を進めています。小泉前総理の外国人観光推進専門家会議で、アレックス・カー氏やカロリン・フंक氏が鞆の破壊をやめるよう要望し、国交省総合調整局から開発と保存の調和が重要との回答文書が出ました。12月には、広島市で開催のイコモス法律行政財政問題国際学術委員会が、行政に対して鞆の浦の保存を要望する勧告を採択し、小委員会はこれを受けて関係行政への要望等を行なう予定です。白川村については、久保田尚委員を中心に地元との調整が進み、来年秋に交通問題に関する国際会議開催の方向が固まりつつあります。（益田兼房）

5. その他

*ICOMOS Advisory Committee 2006年9月エディンバラ会議にて

各国の国内委員会の活性化とイコモスISCとの連携が課題とされていた。韓国、中国オーストラリア、日本の代表から各国内委員会の活動の様子が紹介され、日本からは前野日本イコモス委員会委員長、岡田執行委員が出席し、鞆の浦や広島、白川郷の問題とその取り組みが紹介された。



審議事項

1. 入会者および退会者の承認

2005年12月23日～2006年12月9日までの入会者及び退会者が承認された。

個人会員

第1回拡大理事会（2006年3月18日）承認

氏名	勤務先	専門分野	推薦者
浅野ひとみ (あさのひとみ)	長崎純心大学 人文学部 助教授	西洋中世美術史 (サンティアゴ巡礼路の美術)	柳沢孝次・山田利行
西山徳明 (にしやまのりあき)	九州大学大学院 芸術工学研究院・ 環境計画部門 教授	文化的環境 歴史的集落	矢野和之・福島綾子
生田朋子 (いくたともこ)	東京文化財研究所 国際文化財保存修 復センター	東南アジアの遺跡 修復 考古学	青木繁夫・稲葉信子
岩井俊平 (いわいしゅんぺい)	東京文化財研究所 国際文化財保存 修復協力センター	東南アジアの遺跡 修復 考古学	青木繁夫・稲葉信子
岩出まゆ (いわでまゆ)	東京文化財研究所 国際文化財保存 修復協力センター	東南アジアの遺跡 修復 考古学	青木繁夫・稲葉信子
Alex KERR (アレックス・カー)	株式会社 庵 会長	日本学	矢野和之・前野まさる
高尾忠志 (たかおただし)	九州大学大学院 工学研究院建築 デザイン部門 助手	都市景観	矢野和之・佐々木政雄
小川裕見子 (おかわ ゆみこ)	大阪府教育委員会 文化財保護課 技師	博物館学・ 文化遺産学	岸本雅敏・金岡恵
孫鏞勲 (ソン・ヨンファン)	東京大学大学院 農学生命科学研 究科 歴史的村 落景観保全 博士課程後期	造園学・造景学	矢野和之・前野まさる
大橋康二 (おおはし こうじ)	佐賀県立陶磁文化館 副館長	中・近世考古学 中・近世陶磁史	荒木伸介・矢野和之

第2回拡大理事会（2006年5月27日）承認

氏名	勤務先	専門分野	推薦者
石原 渉 (いしはらわたる)	財団法人日本習字 教育財団企画編集 課 課長	海洋考古学	荒木伸介・矢野和之
UGO Mizuko (ウーゴ・ミズコ)	東京文化財研究所 国際文化財保存修 復協力センター 日本学術振興会 外 国人特別研究員	歴史的建造物の 保存・修復史 工学博士	青木繁夫・稲葉信子

太田(中川)明子 (おおたなかがわあきこ)	独立行政法人国立高等 専門学校機構 徳山工業 高等専門学校 土木建築 工学科 助手	西洋建築史・ 歴史的建造物保存 工学博士	伊藤重剛・岡田保良
西田雅嗣 (にしだともつぐ)	京都工芸繊維大学 大学院工芸科学研究 科 造形工学部門 助教授	西洋建築史 工学博士	日高健一郎・岡田保良
メンドサ島田・ オルガ恵子 (メンドサ島田オルガ恵子)	東京藝術大学大学 院美術研究科文化 財保存学専攻保存 修復建造物研究室 博士課程後期	歴史的地区保存・ 歴史的建築保存 修復	前野まさる・益田兼房

第3回拡大理事会（2006年9月16日）承認

氏名	勤務先	専門分野	推薦者
富士川 一裕 (ふじかわ かずひろ)	財団法人都市研究所 代表取締役	都市再開発	矢野和之・甲斐章子
門林 理恵子 (かたばやしりえこ)	独立行政法人情報通 信研究機構知識創成 コミュニケーションセン ター主任研究員	情報工学の文化財 分野への応用	高瀬裕・山田 修
仲野 浩 (なかのひろし)		日本古代史	前野まさる・矢野和之
国広ジョージ (くにひろじょうじ)	国士館大学工学部 教授	建築意匠 建築 計画	前野まさる・岡田保良
是澤 紀子 (これさわのりこ)	東京藝術大学大学院 美術研究科文化財保 存学専攻保存修復建 造物研究室 教育研 究助手	文化財保存学	清水真一・稲葉信子

第4回拡大理事会（2006年12月9日）承認

氏名	勤務先	専門分野	推薦者
畑中重光 (はたなかしげみつ)	三重大学大学院 工学研究科建築 学専攻 教授	建築材料・鉄筋 コンクリート構造	西浦忠輝・花里利一
菊池誠一 (きくち せいいち)	昭和女子大学 大 学院 生活機構研 究科 助教授	ベトナム考古学	小野昭・岸本雅敏
Ehab ELWAGEEH (エハブ・エルワギー)	日本設計 アドバイザリー・ アーキテクト	Architect, Ph.D.	岡田保良・田原幸夫
Carolyn FUNCK (カロリン・フンク)	広島大学 大学院 総合科学研究科 助教授	観光地理学・ 博士	前野まさる・矢野和之
Werner STEINHAUS (ヴェルナー・シュタインハウス)	広島大学 総合科 学部 他 非常勤講師、展覧 会プロデューサー	考古学	前野まさる・岡田保良
金玖淑 (キム・ミンスク)	早稲田大学 大学 院 理工学研究科 院生(博士後期過 程)	工学修士 韓国・日本建築 史・文化財(文化 遺産) 保存	中川 武・西本真一
駒田利治 (こまだとしはる)	三重県教育委員 会事務局 生涯学 習分野 世界遺産特命官	考古学	矢野和之・友田正彦
森 晃一 (もり こういち)	特定非営利活動 法人 ライト建築 アーカイブス 代表理事	人間工学・MBA	矢野和之・前野まさる

佐古和枝 (さこかずえ)	関西外国語大学 教授	日本考古学	矢野和之・中田英史
久世敬司 (くぜひろし)	(財)文化財保存計画 協会 技術員	建築史専攻 デザイン学修士	前野まさる・矢野和之
岡村祐 (おかむらゆう)	東京大学 大学院 工学系研究科 博士課程後期	都市計画 工学修士	前野まさる・矢野和之

維持会員 (国内)

団体名	代表者名	推薦者
普光寺の世界遺産登録を すすめる会	仁科恵敏	鈴木博之・土本俊和

退会者

氏名	専門	事由
小寺武久	建築史	2月19日歿
田辺昭三	水中・砂漠考古学	2月20日歿
中里寿克	日本工芸史	一身上の都合により
西村 康	日本史学	一身上の都合により
川床陸夫	イスラム考古学・文化史	一身上の都合により

2. 次期役員を選任

理事役員の任期は本年来をもって終了するので、日本イコモス国内委員会規約第14条、第19条に基づき本総会において次期(2007-2009年)役員を選任する。定数は委員長1名理事17名以内、監事2名以内。9月25日付で「次期役員を選任に関するお願い」の文書を全会員に配布し推薦を求めた。その結果をもとに11月25日の臨時理事会にて慎重に審議を行ない、以下の役員を選任案を作成。昨年12月9日の第4回拡大理事会にて確認され、同日の総会で承認された。 《本号3頁参照》

3. 2007年活動方針

日本イコモスの法人化については、長年の懸案で、NPO法人化も難しいとされていたが、公益法人法の改正により可能性が高まってきた。基金が300万円以上(現在日本イコモスには、1255万円の基金がある)で登記が可能となりそうです。詳しい省令は本年となるが、2008年の12月には申請できる状況になりそうである。このため、その準備のための

組織を2007年次に立ち上げたいと考えている。

近年、日本の世界遺産を取り巻く環境も、都市の開発などで変化が生じている。中には危機的状況が生じているものもあるので、日本イコモス国内委員会としてもモニタリングの必要があるのではないかと考えている。そこで、ここでも皆様のお力をお借りしてその準備をしたいと思っている。

4. 2007年次予算案

本年は、本部会費がドルからユーロ建てへと変わるため、実質値上げとなり、国内委員会の会計を圧迫することになるが、維持会員を増やすなどして(10社程度)、国内会費の値上げを行なわないようにしたいと考える。会員担当理事とともに努力したい。小口の寄付も集められればと思う。とりあえず、2007年次は2006年の繰越金があり、大丈夫。また、世界遺産関連本の監修など収入に結びつく情報があればご一報をお願いしたい。

4. 日本イコモス国内委員会 2007年次予算

(2006年12月1日～2007年11月30日まで)

1. 収入

2007年分会員会費	3,000,000円
未納分会員会費	360,000円
維持会員会費	1,000,000円
事業費等収入	0円
雑収入	0円
寄付金	100,000円
普通預金利息	0円
定額預金利息	3,000円

合 計 4,463,000円

2. 支出

ICOMOS本部負担金(40ユーロ×300名)	1,830,000円
会議費	100,000円
研究費	100,000円
渡航費補助	0円
INFORMATION誌 編集・印刷費	900,000円



通信費	500,000 円
事務用品費	250,000 円
事務局人件費	750,000 円
事業費	0 円

合 計	4,430,000 円
-----	-------------

3. 収支 (収入-支出)	33,000 円
---------------	----------

協議事項

イコモス理事の役割の明確化について

現在、理事には役割分担がなされているが、必ずしも明確でないので、新理事の決定を機会に再度役割と理事の補佐の必要性が議論された。

1. 理事の役割 (案)

- ・ 総務・庶務担当理事 法人化準備、理事会等準備・運営、事務局の運営
- ・ 会計担当理事 財源確保
- ・ 広報・編集担当理事 イコモス インフォメーション誌編集、ホームページ立ち上げ・管理
- ・ 渉外担当理事 海外情報収集・伝達・対応
- ・ 会員担当理事 会員、維持会員
- ・ 事業担当理事 研究会・シンポジウム、国際会議の企画運営、出版・講演の企画
- ・ 国際専門分科委員会 (ISC) 担当理事 各専門委員会の活動の把握、各専門委員会の国内活動の活性化
- ・ 世界遺産担当理事

日本国内で登録された世界遺産はそれぞれ幾つかの課題を有しており、これらの現状を日本イコモスとしても常時把握し

ておく必要がある。先々、日本イコモスによる自主モニタリングにつなげることも考えられる。

2. 理事を補佐するメンバーの創設

理事の活動の活性化を促すとともに、その負担を軽減するために活動を補佐するような体制をつくる。

研究会：「日本における文化遺産のバッファゾーン」に関する報告とディスカッション

2006年12月9日、日本イコモス国内委員会総会の後に同所東京テレコムセンタービルで「日本における文化遺産のバッファゾーン」と題した研究会が開かれた。報告は益田兼房 (立命館大学)、カロリン・フंक (広島大学)、梅津幸子 (京都市) の3氏の話題提供によるものである。

益田氏の報告は「イコモス・シンポジウム『世界遺産条約とバッファゾーン』』というもので、日本イコモス国内委員会と(財)ユネスコアジア文化センター主催で広島市内のホテルを会場として開催された国際シンポジウムの報告である。2006年11月27日から30日までの4日間開催され、初日と最終日の調査・見学の他2日間は海外14カ国16名の参加によるセッションと3日目の午後には議論の整理の後に一般公開のパネルディスカッションも開催され、次の3つの報告が提出された。

・「原爆ドームに関する報告」は日本国内各総理大臣、広島県知事、広島市長に宛てて、原爆ドーム周辺の高層建築の建設による景観破壊に対する憂慮し呼びかけたもの。

・「鞆の浦に関する報告」は日本国内各総理大臣、広島県知事、福山市長に宛てて、架橋計画を見直し鞆港と鞆の町並みの一体性を重視することを呼びかけたもの。

・「イコモス本部 (パリ) に対する報告」は世界遺産を将来にわたって存続させるためにバッファゾーンの必要性和その保護について世界に向けて、一層呼びかけてほしいという報告。以上の報告が、世界遺産条約とバッファゾーンに関する会議に際して、2006年11月29日に広島市で採択されたのである。

フंक氏の報告「文化財。都市景観とバッファゾーン」で

2007年次臨時理事会報告

は、ドイツ語圏における世界遺産をめぐる論争（ドイツ各地とウィーンの例）やドイツにおける文化財保護の特徴、ケルンの事例の詳細が述べられた。ケルンの旧市街地は第2次世界大戦の被害が甚大で、文化財といっても教会（大聖堂、ロマネスク教会数カ所）の他、ローマの遺跡が残っている。もともと近代建築を中心とした再開発であり、大聖堂の周辺も中央駅と2つの近代的な博物館などがあり、古い市街地ではない。問題とされているライン川沿いの高層ビル開発もこうした文脈から当然のように生じてきたと理解すべきだろう。世界遺産を有している都市でさえ、現代のすべての都市が抱えている普遍的問題と無縁ではない。フंक氏の発言で非常に印象に残ったことは、世界遺産登録でドイツ国内の「遺産」（文化財）に二極化が起きたということである。つまり、ドイツの記念物（文化財）の考え方は、世界遺産が登場する前は、文化財はすべて同レベルの扱いであった。国家的であろうと地方的であろうとその土地その地域における価値は認めるというものだったが、「世界遺産」以来、予算は従来型の記念物への配分は世界遺産に取られて減少しているという。これまでのドイツ特有の地方分権的な記念物の考え方に大きな変化を与えているといえよう。文化的景観の危機については、EUの農業政策のグローバル化を原因に挙げている。交通網の発達と高層ビルの増加による都市景観の危機では、東西ドイツの統一後における都市の衰退に対する振興策、つまり都市計画の規制緩和、人口減少社会における都市間競争をその原因と分析している。

梅津氏から京都市の「新たな景観政策の素案について」という市民向けの説明用に作成された資料をもとに景観法の実施のためのきわめて具体的な戦略の紹介があった。これまで市民向けの説明資料は第1集「高度地区による高さ規制の見直し」から第5集「眺望景観の保全に関する新たな条例」まで作成され、素案の閲覧や市のホームページ上での公開を実施してきている。報告では第1集と第5集を中心に資料を用いて説明されたが、市民の目の高さで語られる内容は、率直で真摯かつ判りやすい。長年の景観政策の蓄積が生きているのだろうか。素案の副題にある「時を超え光り輝く京都の景観づくり」といささか長めなタイトルに、並々ならぬ意気込みを感じる。その成果に期待したい。

2007年次臨時理事会が去る2007年1月27日(土) 12時から16時まで日本イコモス事務局（東京都千代田区／文化財保存計画協会会議室）で開催された。出席者は、委員長：前野まさる、副委員長：杉尾伸太郎、事務局長：矢野和之、理事：赤坂 信、小野 昭、河野俊行、清水真一、杉尾邦江、鈴木博之、西浦忠輝、濱崎一志、渡邊保弘、監事：前田耕作、顧問：伊藤延男、特別参加：稲葉信子、岡田保良（本部執行委員）、松田正充の各氏が出席、事務局から秋枝ユミイザベル、山内奈美子両氏が陪席した。報告事項、審議事項及び協議事項は以下の通りである。

報告事項

1. 原爆ドームと鞆の浦勸告について

2006年11月末に、ISC-ICLAFIの会議を広島で開催した。2000年のメキシコでのイコモス総会でバッファゾーンについて報告していた河野が、改めて原爆ドームと鞆の浦をくくり、バッファゾーンに関する会議の開催を試みた。原爆ドームと鞆の浦を視察し（2日間）、2日目の午後は一般公開シンポジウムを開いた（本号17頁参照）。また、この会議はドームの世界遺産登録10年記念に重なったこともあって、2週間にわたり、中国新聞は毎日この会議について取り上げ、NHKも10分の特別報道をした。大いに宣伝効果が上がったものと考えられる。そこで勸告文を日英版と作成した。これを内閣総理などに送付したいと考えている。

この勸告文について内容、文面、宛先、サインに関する質疑、確認があった。その結果、内閣総理大臣・広島県知事・広島市長の3名に、この勸告文を送ることが了承された。（河野俊行理事）

2. イコモス執行委員会の会議報告

執行委員会は、毎年1月と、秋の諮問委員会の会議と同時に、年に2回開かれる。1月の会議は、世界遺産の推薦案件の審査をする会議にあたる。世界遺産審査に3日用



い、後の2日間でイコモスの全般的な問題について話し合いをする。今回は、カナダで開かれる次回の総会について、またイコモスの予算について、話し合いがなされた。

世界遺産の審査は、33件の案件を審査した。審査プロセスの詳細は、実際に関わってみないとなかなかわからないものであるが、暫定リストの作成のためにも、知っておくべきである。特に日本は、今まで失敗のケースはないが、最近では審査が非常に厳しくなっている。例えば、去年はすんなり登録が決まった案件は10件に満たなかった。審議の中身は原則的にconfidentialなので、内容については話さないが、委員として苦労したことについて報告する。通常、会議に先立ってadvisor membersが原案を作成し、執行委員は原案をもとにディスカッションすることになっている。けれども今年は原案が出来ていない案件が多く、審議の時に執行委員が分担して原案をつくらなくてはならなかったため、スケジュールに混乱が生じた。審議の結論は、いずれ来る事になると思う。

イコモス全般について話し合われた項目から報告すると、
1. 今年からパリ本部への会員費の支払いがユーロになる。
2. 未払い国の問題について。
3. 2008年に開かれるカナダでの総会のプログラムがはっきりしてきた。
4. 今年の諮問委員会は南アフリカで開かれる(2006年はエディンバラだった)。ケープタウンで10月6～12日になる予定だが、詳細はこれから決定される。

また、本日の臨時理事会の議題から、日本国内の暫定リストについて触れておきたい。

1月23日に発表された通り、日本の暫定リストは公募を基本にしたシステムになった。18人いる特別委員に、斎藤英俊・西村幸夫・岡田保良が含まれている。斎藤氏と西村氏がリーダーの役割を担った。申請のあった24件のうち、4件が採択され、残りは来年度の継続審査となった。すぐに退ける事はされなかった。日本イコモスの会員の存在が高まっており、これからも高まることが期待される。世界遺産のリストアップのプロセスを通じて、文化遺産全般についての認識を高めたいと思う。(岡田保良執行委員)

審議事項

1. 入会者 個人会員

氏名	所属	専門分野	推薦者
山田 宏 (やまだひろし)	奈良県教育委員会 文化財保存事務所 主査	文化財保存修復 技術 修士	前野まさる・金井 勉
江田 修司 (えだしゅうじ)	株式会社 江田編集企画室 代表取締役		前野まさる・矢野和之

2. 退会者 なし

山田氏の入会は承認されたが、江田氏の入会は継続審議となった。どのような範囲をイコモスの会員にするか。専門分野をもう少し明確にした上で、3月の理事会で継続審議とすることとなった。

日本イコモス国内委員会 会員数 (今回の入会者を含む)
個人 301名 維持会員 14社

協議事項

1. 新理事の役割分担

役割分担について矢野事務局長から説明があった。

- 1) 総務・庶務担当/法人化準備
理事会準備/運営、事務局の運営
- 2) 会計担当/財源確保
- 3) 広報/編集担当/イコモスインフォメーション誌編集・
ホームページ立ち上げ・管理
- 4) 渉外担当/海外情報収集・伝達・対応
- 5) 会員担当/会員、維持会員
- 6) 事業担当/研究会・シンポジウム、国際会議の企画運
営・出版・講演会の企画

7) ISC (国際学術委員会) 担当/各ISCの活動の把握・ISCの国内活動の活性化

8) 世界遺産担当/日本国内で登録された世界遺産はそれぞれいくつか課題を有しており、これらの現状を日本イコモスとしても常時把握しておく必要がある。先々、日本イコモスによる自主モニタリングにつながることも考えられる。

上記の6) までは、今まであった担当項目。7) については、現在まで事務局が部分的にやってきているが、各々のISCの状態について、なかなか情報を把握できないのが現状である。積極的に情報を集め、情報を共有する事が求められる。8) については、現在小委員会があるが、小委員会の形で続けるのか、担当理事と小委員会に関連して進めていくか、話し合う必要がある。

役割及び担当について本臨時理事会で議論したが、3月の拡大理事会までに決定することになった。

2. 理事を補佐するメンバーの創設

理事メンバー内にするか、若手会員に頼むか、矢野事務局長から提案があった。

3. 小委員会、特別委員会について

現在の「世界遺産小委員会」と「文化遺産と都市開発小委員会」が役割と分担を考慮した再編を検討すべきであると矢野事務局長から提案があり、討議された。

4. 2007 年次 理事会の日程と場所 (案)

1月27日(本日)	臨時理事会	東京
3月16～17日	第1回拡大理事会	三重県熊野古道
5月26～27日	第2回拡大理事会	岩手県平泉
9月22～23～24日	第3回拡大理事会	長崎県五島列島
12月8日	第4回拡大理事会	東京

以上の日程が示された。

5. 共催・後援名義

(1) 三重県教育委員会生涯学習分野 世界遺産特命監より受けた2007年3月17日開催の座談会の共催名義使用申請は協議の結果、了承された。

(2) 2007年4月21日開催 日本イコモス国内委員会主催

の研究会のため、奈良文化財研究所へ後援申請することが了承された。

6. その他

(1) 日本イコモス国内委員会の法人化に向けて継続して進めていくことが了承された。

(2) 「明日の靨を考える会」の抗議書の扱いについて 明日の靨を考える会なる団体から前野委員長宛に「靨の浦についての勧告」に対する抗議書が届けられている。一方、矢野事務局長宛には同抗議書が故なき中傷であることを伝える文書が届けられている。協議の結果、抗議書に対しては正論で応えるしかないということになった。

ISC 関連報告

「イコモス国際木の委員会」報告 (2007年2月)

昨年9月トルコにおいて委員会を開催して以来、何の動きもありません。但し、昨年末にホームページが一新されました。その中のアナウンスメント欄に次の2点があります。

1. “イコモス国際木の委員会”の次期シンポジウムは、2007年秋イタリア・フローレンスにおいて開催する。
2. 2006年9月18-23日トルコ・イスタンブールでの“イコモス国際木の委員会”国際シンポジウムのプロシーディングスが出ていない。

以上ですが、若干私見を加えます。1. については、これ以上詳細な情報はありませんが、開催地がイタリアであることやタンポーネ氏の専門から考えますと、テーマは小屋組構造の歴史ではないかと推察されます。極めて興味あるテーマです。2. は、本来開催時に配布されていなければならないプロシーディングスが出ていないということです。なお、ホームページの他の欄を見ますと、現規約は極めて古く実態はエゲルプリンシプルズ以前のものであり、またメンバー表も作成中とのことです。これが木の委員会の実態です。早期に整備され且つ実体のある国際委員会にする必要があります。

(伊藤延男)



「テラ 2008 (Terra 2008)」の開催決まる

第10回「土の建築」国際会議 10th International Conference on the Study and Conservation of Earthen Architectural Heritage (通称 Terra 2008) の第1回サーキュレーションが届いています。2008年2月初旬、アフリカ・マリ共和国のバマコを主会場とし、Getty Conservation Institute とマリ文化省の共同主催という形で開催されます。2003年12月のバム地震直前にイランのヤズドで第9回が開催されて以来の大会です。間もなく第2回目の案内が回ると思いますが、関心をお持ちの方々、詳細情報は http://www.getty.edu/conservation/field_projects/earthen/terra_2008_english.pdf にアクセスをお願いします。

(岡田保良 okaday@kokushikan.ac.jp)

国際研究集会

「アジアの王陵シンポジウム」報告

昨年12月27日から2日間、韓国ソウルで「アジアの王陵 Royal Tomb in Asia」をテーマとするミニ国際シンポジウムが開かれました。主催は韓国イコモス。朝鮮王朝ゆかりの遺跡を次々に世界遺産に登録してきた韓国政府の戦略に沿ったイベントだったようです。比較研究される陵墓の対象は韓・中・日のほかインドシナから西アジアまでを含み、日本からは関西外大の佐古和枝先生が招かれ古墳研究の現状を紹介されました。ベトナムからはフエの修復責任者が招待されて自国の陵墓を紹介。私は西アジア世界の多様な王墓を形式別に紹介しました。

(岡田保良)

「メールダッド・ヘジャジ博士特別講演」報告

ユネスコ・アジア文化センター(奈良市)が主催した国際会議「文化遺産の危機管理 I」(1月31日～2月3日)に、イラン・イコモスのメールダッド・ヘジャジ博士(イスファハン大学教授)が招聘されて、来日しました。ヘジャジ氏は、西アジアを代表する歴史的建築物の構造修復の専門家で、ISCARSAH(建築遺産の構造修復と解析に関する専門委員会)のイラン側メンバーとして活躍しています。ヘジャジ氏より、東京でイコモス会員に講演する機会を持ちたいという要望があり、前野委員長らと相談して、1月30日に岩波書店

一ツ橋ビル地下会議室で特別講演を開催しました。

ヘジャジ氏は、イランの建築遺産について歴史および構造や環境的な面から紹介するとともに、実例として世界遺産アリカブ宮殿の構造解析・修復や世界遺産中世歴史都市の復興状況・修復計画について1時間半ほど講演しました。講演会には、前野委員長ほか10名ほど出席しました。講演では、文化的景観を守るためのアルゲバム周辺地区のバッファゾーンや構造補強法などについて質問があり有意義な講演会になりました。

講演会の後は、ヘジャジ氏夫妻を招いてウェルカム・ランチをとりながら懇談しました。ヘジャジ氏は、建築遺産の保存について日本イコモスとより密接にコラボレーションを持つことを望む内容のイラン・イコモスからの手紙を携えて来ました。文化遺産の保護に関する国際的な協力を推進する法律が昨年制定されましたが、両国のイコモス委員会がより密接な協力関係をもち、文化遺産の保存活動が協力して進められるよう期待されます。

(花里利一)

本部執行委員会雑感

世界遺産審査を主な目的とする定例の執行委員会が、去る1月19日から23日までの5日間、パリのイコモス本部会議室で開催されました。今回は日本の石見銀山遺跡を含む24の文化遺産候補がユネスコ世界遺産センターから諮問され、昨年同様シビアで白熱したパネル討議(もちろんオフプレコ)が行なわれました。事前にイコモス・アドバイザーのプレゼ原案が配信されるのは昨年通りでしたが、本部文書庫に保管されている各国から世界遺産センターに送られた申請文書のPDF版が、ひと月近く会議に先立って、パネルメンバーなら誰でもネット上で取り出せるように用意されたのは初めての試みでした。4日目の朝には、ベツェット委員長を真ん中に、ブシュナキ現イクロム代表、バンダリン世界遺産センター事務局局長が両脇を固めるという、友好的でありながらもピンと張り詰めたような緊張感を漂わせる光景を眼前にしました。財政的に決して楽ではないイコモス本部ですが、ユネスコへの依存割合を少しでも減じていくことが、より公正な関係を長く維持するために必要であることを痛感したひと時でした。

(岡田保良)

日誌 事務局

(2006年11月26日～2007年2月2日)



- 11/27-30 日本イコモス国内委員会・財団法人ユネスコアジア文化センター主催「世界遺産条約とバッファゾーンに関する国際会議」開催。会場：ホテルグランヴィア広島（27日：現地調査 原爆ドーム、平和公園、鞆の浦。28日：イコモス会議。29日：イコモス会議および一般公開 パネルディスカッション。ISC法律・行政・財政問題に関する国際科学委員会（ICLAFI）が運営（河野俊行氏）、同ISCより多数の専門家が来日。日本からは梅津幸子氏、宇高有志氏発表、前野委員長他多数名が参加。
- 12/07 (財)ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所より、「Proceedings - International Conference on the Safeguarding of Tangible and Intangible Heritage: Towards an Integrated Approach」（UNESCO 2006、英仏）、「文化遺産に関する国際シンポジウム「近代の文化遺産を考える」－鉄道遺産の保存と活用」記録集、International Conference “Thinking About Recent Heritage -Preservation and Utilization of Railways-” Report を受領。
- 12/09 2006年次第4回拡大理事会、2006年次総会、研究会「日本における文化遺産のバッファゾーン」開催（於 東京テレコムセンタービル 小会議室）。
JAPAN ICOMOS INFORMATION 誌 第6期12号発行、会員に順次発送。
- 12/11 九州大学大学院法学研究院河野研究室より、イコモスシンポジウム勧告「原爆ドームに関する勧告」“Recommendations for Hiroshima City”（日・英）を受領。
- 12/20 日本ユネスコ協会連盟より「世界遺産年報2007」を受領し、1月に全会員に発送。
- 12/28 今井町並み保存会より「甦る自治都市「今井」」（八甫谷邦明編著）を受領。
- 2007/01/10 江田修司氏より「日本JAPAN」（English version）を受領。
- 01/14 「世界遺産条約とバッファゾーンに関する国際会議」（11月、広島）で採択された勧告の確定版（日英）を河野俊行氏より受領。
- 01/15 文化財保存支援機構より「NPO JCP News」（No.15 2007.1.1）を受領。
- 01/19 (財)ユネスコ・アジア文化センターより ACCU NEWS No. 359 2007 新年号を受領。
- 01/24 筑波大学大学院 人間総合科学研究科 世界遺産専攻 地域再生プロジェクトより「地域再生と観光戦略プロジェクトニュースレター4号」2006.12月号を受領。
- 01/27 日本イコモス国内委員会 臨時理事会（於・岩波書店一ツ橋ビル 地下会議室）。
- 01/30 イランイコモス・イスファハン大学教授 Mehrdad HEJAZI 氏特別講演会 “Structural Restoration of Architectural Heritage in Iran with focus on the Bam Citadel”（於・岩波書店一ツ橋ビル 地下会議室）。
- 01/31-02/03 (財)ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所（ACCU 奈良）主催、国際会議「今、世界の文化遺産は大丈夫か」が奈良県新公会堂にて開催される。イコモス後援、日本イコモス国内委員会は協力。前野委員長をはじめ、日本イコモスの会員多数参加。3日は国際シンポジウム（一般公開）を開催。
- 02/02 ICOMOS 本部より、2007年のICOMOS 会員カードが到着。各会員へ順次発送。
欧州茅葺き視察研修報告書刊行会 日塔和彦氏より「ヨーロッパの茅葺きとその技術 その3（ハンガリーの葦生産と茅葺き）」を受領。
三重県教育委員会事務局 世界遺産特命監へ、平成18年度 世界遺産熊野古道 保存管理事業「座談会 文化的景観から見た熊野古道」共催名義使用承認を回答。

日本イコモス国内委員会 維持会員（代表者）

（敬称略・順不同）

株式会社 尾田組（尾田芳信）

株式会社 総合計画機構（糸谷正俊）

株式会社 乃村工務社（乃村義博）

株式会社 文化財保存計画協会（矢野和之）

株式会社 トリアド工房（伊藤民郎）

株式会社 京都科学（片山 保）

株式会社 小林石材工業（小林美和）

株式会社 鴻池組（大岩祥一）

株式会社 都市環境研究所（矢嶋啓自）

株式会社 ブレック研究所（杉尾伸太郎）

「国宝松本城を世界遺産に」推進委員会（有賀 正）

西武建設株式会社（大澤茂治）

北野建設株式会社（北野次登）

「善光寺の世界遺産登録をすすめる会」（仁科恵敏）

日本イコモス国内委員会の活動には以上の企業のご支援をいただいております。

●日本イコモス国内委員会 理事会 JAPAN-ICOMOS EXECUTIVE BOARD

President	委員長	前野 まさる	Masaru MAENO		
Vice President	副委員長	杉尾伸太郎	Shintaro SUGIO		
Secretary General	事務局長	西村 幸夫	Yukio NISHIMURA		
		矢野 和之	Kazuyuki YANO		
Trustees	理事	赤坂 信	Makoto AKASAKA		
		小野 昭	Akira ONO		
		河野 俊行	Toshiyuki KONO		
		黒田 乃生	Nobu KURODA		
		清水 真一	Shinichi SHIMIZU		
		杉尾 邦江	Kunie SUGIO		
		鈴木 博之	Hiroyuki SUZUKI		
		田中 哲雄	Tetsuo TANAKA		
		田辺 征夫	Yukio TANABE		
		西浦 忠輝	Tadateru NISHIURA		
		濱崎 一志	Kazushi HAMAZAKI		
		益田 兼房	Kanefusa MASUDA		
		宮城 俊作	Shunsaku MIYAGI		
		渡邊 保弘	Yasuhiro WATANABE		
		Auditors	監事	沢田 正昭	Masaaki SAWADA
				前田 耕作	Kosaku MAEDA
		Advisors	顧問	石井 昭	Akira ISHII
伊藤 延男	Nobuo ITO				
坪井 清足	Kiyotari TSUBOI				

小委員会 WORKING GROUPS

Chiefs	主査	藤井 恵介	Keisuke FUJII
		稲葉 信子	Nobuko INABA
		石井 昭	Akira ISHII
		益田 兼房	Kanefusa MASUDA

●国際諸委員会参加者 REPRESENTATIVES TO INTERNATIONAL COMMITTEES

Executive Member	岡田 保良	Yasuyoshi OKADA
Advisory Committee	前野 まさる	Masaru MAENO
Specialized Committee on:		
Archaeological Heritage Management	小野 昭	Akira ONO
Analysis and Restoration	岸本 雅敏	Masatoshi KISHIMOTO
	花里 利一	Toshikazu HANAZATO
Historic Towns and Villages	坂本 功	Isao SAKAMOTO
	西澤 英和	Hidekazu NISHIZAWA
	福川 裕一	Yuichi FUKUKAWA
Underwater Cultural Heritage Training	上野 邦一	Kunikazu UENO
	荒木 伸介	Shinsuke ARAKI
Historic Gardens and Cultural Landscapes	稲葉 信子	Nobuko INABA
	工楽 善通	Yoshimichi KURAKU
Vernacular Architecture	杉尾伸太郎	Shintaro SUGIO
	本中 眞	Makoto MOTONAKA
Wood	前野 まさる	Masaru MAENO
	大野 敏	Satoshi OHNO
Earthen Architecture	伊藤 延男	Nobuo ITO
	本田 智子	Satoko HONDA
Cultural Tourism	渡邊 保弘	Yasuhiro WATANABE
	岡田 保良	Yasuyoshi OKADA
Legal Issues	宗田 好史	Yoshifumi MUNETA
	石井 昭	Akira ISHII
Heritage Documentation	河野 俊行	Toshiyuki KONO
	山田 修	Osamu YAMADA
Cultural Routes	杉尾 邦江	Kunie SUGIO
	大野 渉	Wataru OHNO
Stone	西浦 忠輝	Tadateru NISHIURA
	石崎 武志	Takeshi ISHIZAKI
Risk Preparedness	益田 兼房	Kanefusa MASUDA
Rock Art	小川 勝	Masaru OGAWA
	五十嵐ジャンヌ	Jannu IGARASHI



JAPAN ICOMOS/INFORMATION

Vol.7, No.1 13 MARCH 2007

日本イコモス国内委員会 委員長 前野まさる

事務局担当理事 矢野和之 編集 赤坂 信

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-5-5 岩波書店一ツ橋ビル 13階

株式会社 文化財保存計画協会 気付

Tel & Fax: 03-3261-5303 e-mail: jpicomos@kb4.so-net.ne.jp

JAPAN-ICOMOS National Committee OFFICE

c/o Japan Cultural Heritage Consultancy

Hitotsubashi 2-5-5-13F, Chiyoda-ku, Tokyo 101-0003, Japan

Tel & Fax: +81-3-3261-5303 e-mail: jpicomos@kb4.so-net.ne.jp